

5番(中村 充男君) 早いもので、議会に送っていただきまして、早や1年が過ぎました。前回に続きまして、質問者が8名もう既に終わられまして、私の質問内容をチェックしておりますと、だんだんなくなっていきまして、重複するかもしれませんが、9番目となりまして、質問の内容に非常に窮しておりますが、そうも言っておれませんので、お伺いをいたしたいと思います。

ひとつよろしく願いをいたします。

まず、この1年間を検証いたしまして、3つの点について、これからの課題と方向性をお伺いしたいと思います。

まず1点目は、オレンジバスでございます。

昨年の初議会で私、このオレンジバスにつきまして、いかななものかという観点からご質問をさせていただきました。町長のご答弁は、路線変更したり、時間帯を考えたり、もう一度検証しながらやり直すので、いましばらくご理解をということでございました。

この1年間、ずっとあのままバスを走らせておられまして、どのような検証結果が得られたか、そして、これからどうすべきかということを考えていらっしゃるかをお伺いしたいと思います。

2つ目は、ガラスハウスの件でございますが、これもまた、同僚議員が2、3、質問をなさいました。

昨年、私はこのガラスハウスが利用されていないことに関しまして、もったいないという観点から、何らかの形で、あのハウスを生かすことができないか、幾つか提案をしてみましたけれども、この提案も協働委員会なるものが協議中だということで、そこに使わせてもらいたい、ずっと1年たってまいりまして、数百万円の金が消えていった。これもまた先般、いろいろ質問された方に対しまして、ご返答いただきましたけれども、まだ私の腑に落ちない点がございますので、今後の方向性とお伺いしたいと思います。

そして、3つ目は町内業者の起用について、難しい言葉で言っておりますが、平たく言えば、これも昨年、議会で、大学対抗サッカー大会に、当町のグラウンドが使われた。そして名古屋の某大学から役場の方に、当日のお昼の弁当を手配していただけるかという問い合わせに対しまして、当町ではそういう施設がないので、途中のコンビニで弁当を調達してほしい、こういう旨を伝えられた。よそで買ってきた弁当を食べながら、ごみだけ東員町に残していくようなサッカー大会ではつまらない。できたら、町内でいくらでも業者がいるから、

そちらの方へ、商工会を通してでもいいからお願いをしてほしい、こういうお願いをいたしましたところ、以後、十二分に気をつけるということでご答弁をいただきました。

しかし、またまた1つ2つ大きなミスをしてしまいました。去る1月25日、当町の文化会館におきまして、吉本新喜劇の公演がなされた。11月末に吉本興業から担当者が4名ほどみえまして、いろいろ先に下調べをされた。その帰りに弁当を注文されたところがあります。

ところが、1月中ごろになりまして、いよいよ日にちが迫ってきたので、教育委員会の方に数の確認をしたところ、もう既に弁当発注済みということでございました。それならば仕方がないなと思っておりましてけれども、私、脳裏にめぐったのは、ひょっとして、また町内の業者ではないのではないか、こういうことを思いまして、当日、控室といいますか、楽屋の方に行きまして、弁当のはしの袋を集めてまいりました。そうしましたら、あにはからんや、やっぱり桑名の業者から弁当を取っている。そして、町内のある業者の方が、商工会に加盟しているのに、何でこういうことを言ってもらえんかということで、商工会に問い合わせたところ、商工会は全く関係ないので知りませんと、こういう返答だったと。

これに関しましては、いつの段階で、どうしてそんなところにかわっていったのか、だれがそういうふうに変えたのかということを徹底的に調べていただきまして、以後気をつけますと、それでは通らない。

町長は、商工会主催の賀詞交換会におきまして、これからますます商売、工業が厳しくなってくるので、皆さんで力を合わせてと、こういうお言葉を発せられました。しかし、こんなところで大きな落とし穴で、よその業者に行くということはいかななものか。

この3点について、よろしくお願いをいたします。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) おはようございます。

ただいま、中村議員から、3点にわたるご質問をいただきましたので、ご答弁を申し上げます。

まず1点目の、オレンジバスに関するご質問でございますが、運行開始から4年が経過し、これまでも運行ルートやダイヤの見直しを図ってまいりました。

今年度から従来の東西線を東部線と稲部線のルートを見直したところでございます。利用者は年々増加傾向にあり、運行開始時の利用者は7万9,000人でしたが、今年度は10万人を上回る見込みとなり、毎年、バス停留所の乗降調査や、利用者やバスドライバーの聞き取り調査を実施し、利便性の向上を図っているところでございます。

利用者数は年々増加はしておりますものの、利用者の発掘がなかなか見込めない路線もございます。

来年度は再度ルートを見直しまして、運行車両の小型化も図り、稲部線ルートを穴太、筑紫地区へ延伸し、新たに東西線として運行を図る手続を行っております。

この4年間、実証運行としてオレンジバスを運行してまいりましたが、運行には利用状況や運行コストを視野に入れなければなりません。ルートの検討や運行方法の検討、さらには路線廃止も議論しなければならないと考えるところでございます。

近い将来、迎える高齢化に、必ず日常生活にとってなくてはならない交通手段と考えており、今年度も利便性確保のために努力をしておりますので、ご理解をお願い申し上げます。

次に、ガラス温室の検証と課題につきましては、町民活動協働委員会におきまして、2年にわたり議論がなされ、平成19年12月28日に提言書が提出をされました。その提言書の中に、ガラス温室の活用についてのご提言をいただきました。

その内容につきましては、農業を通して、健康づくり、生きがい対策などに活用する、温室を人の集う場、交流の場とし、成果品を活用して、町内の美化や地産地消の活用を図る、といったことが目的とされております。

行政といたしましても、建設当初から、農業を通して町民の方が交流できる施設とすることを目的としていることから、昨年4月、本格的に検討を始めております。

検討会は、町民活動委員の中で、引き続きガラス温室についての検討をいただける9名の委員のほかに、町内の団体から協力いただける委員を加え、総勢15名で、月1度のペースで会議を行っております。

そのような中で、会議のほかに、委員みずから汗を流し活動しようと、夏場の暑い中、休日を返上していただいて、少しでも早く施設活用ができるようにと、枯れ木の伐採とか不用品の処分、清掃等を行っていただいたところでございます。

その結果、花卉の育成が可能な状況となりましたので、花卉づくりのボランティアを公募し、試験的にパンジーを栽培いたしました。委員及びボランティア12名の献身的なご努力によりまして、1,500株のパンジーを育て、完売することができたところでございます。

次年度からは、より発展した活動を実践するため、町内に20年にわたり「緑と花のあるまちづくり」を実践いただいている「花卉クラブ」の協力をいただくことができ、花卉棟で花卉を栽培いただくことといたしております。

また、展示棟では、地産地消の観点から、農産物の直売所を開設すべく準備を進めております。

今後の展望及び課題につきましては、直売所の開設ができましたら、引き続き水耕棟をできる限りみずからで修繕を行い、いちごとトマト等の栽培を行いたいと計画をいたしておりますし、町で実施している園芸教室のほかに、花づくり等の教室も実施することを目標としております。

しかしながら、いつまでもボランティアというわけにはいきませんので、いかに集客し、採算ベースに乗せることができるかが課題と考えており、そのための協議を十分に行ってまいります。

次に、3点目の町内業者の起用についてお答えをします。

昨年3月議会の一般質問の「体育施設や文化施設の有効な活用について」の中で、公共施設を利用する方が町内で消費する体制ができていない、株式会社「東員町」を経営するような形に発想の転換をしてはどうか、とのご指摘だったと記憶しております。

答弁でも申し上げましたが、やはり直接行政が経営を行うことはできませんので、商工会とか観光協会とか、いろいろな面で、それぞれが知恵を出し合いながら収益を上げていかなければならないと考えております。

例えば、陸上競技場で大会に参加された方が食事をするときに店舗を案内する「ガイドマップ」を窓口にも置くことも検討しておりますが、町内の店舗の皆さんが、すべて商工会に加盟しておれば作成も容易なのですが、実際はそうでもございませんので、いまだに実現しておりません。

しかし、広く皆さんに利用していただけるよう、引き続き検討してまいりますので、よろしくご理解のほどお願いを申し上げます。

以上です。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) ありがとうございます。

オレンジバスにつきまして、私、この1月中ごろからフィリピンへ行ってまいりました。マニラ市内を縦横無尽にジブニーなる乗り物が走っておりまして、これはアメリカ軍のジープを改造した、超ど派手なデコレーションをし、大きな音で走っているわけですが、ややもすると、8台、10台続いてくる。このボディの横に、例えば東員駅とか、いろいろそういうふうな英語で書いてあるわけでございますけれども、それに一度乗ってみました。

乗るのに7.5ペソ要るわけですが、日本円に換算すると約20円でございます。ところが、フィリピン内で1日働くと、約800円から1,000円しか日当が出ない。日本では約1万円いただくと仮定すると10倍でございますので、そのジブニーなる乗り物は、日本であれば200円で乗れる。オレンジバスは100円でございますけれども、このジブニーは、手を上げるとそこですぐとまる。そして頭の上に走っているひもをピョッと引っ張ると、すぐとまってくれる。全部乗り放題で7.5ペソ。これは結構重宝されている乗り物でございます。

このジブニーをつくっている工場へ行きましたら、日本からスクラップされたトヨタや日産のディーゼルエンジンがどっと積んでありまして、それをオーバーホールして使っている。日本ではもう廃車となったものが、向こうできれいに新車同然にでき上がりまして、利用されている。その姿を見てまいりました。

このジブニーでございますが、東員町でエアバスとか空気バスと言われているようなオレンジバスを走らせるよりも、もっと小型で、先ほど町長おっしゃいましたが、運行コストを安くするために小型化して、もっと筑紫とか、瀬古泉とか、狭いところも走れるといいなというようなお言葉をいただきましたが、私もこの軽四を10台ほど導入して、どこでも、だれでも乗れるというようなものを作ったら、もっと利用者が多いんじゃないかと。そして例えばネオポリスの方が桑名の市民病院に行かれるときに、予約をしておけばすぐに行ける。そして、これなら300円出しても、500円出しても、玄関から玄関まで送ってもらえる。いろいろ法律的なものもあろうけれども、それは行政の方で考えていただくとして、1台に月30万円かけても、月300万円、年間3,600万円で行けるわけです。今のオレンジバスの半分のコストで行ける。

そして、あのバスは町持ちでございます。私、先般、岡山の早島町、ちょうど東員町と同じ団地が半分、普通のもともとの家が半分というところへ、ごみの問題でお伺いをしました時に、このバスのこともついでにお伺いをしましたら、年間3,500万円で、バスはバス

会社持ちだ。ましてやそこは、倉敷、岡山まで仕事に行く人が多いので、朝晩はそちらの方まで走らせている、こういうことでございました。

前回は言いましたが、菰野町でも三重交通がバスを用いて、かもしか号が走っておりますが、これも年間3,900万円です。ちょっと東員町、高過ぎるんじゃないか、コストをもう少し削減できるのではないかと。そして、もっと利用していただく。社会福祉協議会とか、東員町と書いた軽自動車、日中あちこちでとまっております。町内外を問わず、運送業者の方は仕事が少なくなってきて困っておられる。運転手をどうしたらいいか。そういう方々にご協力をいただきながら、もう少しきめ細かい、オレンジバスにかわる町民の皆さんの足となる体制ができないか、こういうふうに思わせていただきますが、それに対して、またご答弁をいただきたいと思っております。

それと、ガラスハウスでございますが、このハウスを東員町のためにどう生かしていくかということに的を絞っていただかないと、議会の方がうるさいので何とかせないかと、立場でものを言うんじゃないかと、あのガラスハウスに口があったら、どうやって使ってもらいたいということ言うわけでございますが、たまたま口がございませぬが、ちよくちよくあの前を通りますと、もっと違う形で、たくさんの方がここへ来てほしいと叫んでいるように私は思えてなりません。

2～3日前の中日新聞のコラムにも書いてございました。何かすばらしい画家の先生に、先生、どのように絵を書いたらいいか、どうやって書いたら上手に書けるかということ聞きにいったら、画家は、まず絵の具と筆を用意しなさい、何でもいから書きなさい、始めることが大事だ、こういうことを言われた。

この考え方からいきますと、もう今既に産業課でなければ取り扱えないという「たて社会」でいくんじゃないかと、あそこを生かすために、何課がどうしたらいいかということの考え方をしないと、頭の切りかえをしていただかないと、いつまでたっても帳尻合わせの運営になってしまうのではないかと。

花卉クラブが幸い公募をしたら来てくれた。そうじゃありませんね。実は先月26日、午前中に課長が呼び出して、その場で頼まれた。私たち、頼まれたから引き受けました。この議会に合わせて、そんなところに頼んで、そんなこと言ってご無礼でございますが、どこが使われてもいいのです。花卉クラブが使おうが、協働委員会が使おうが、あそこがもっと有効活用されることを私は願って言っております。

どうか、職員の皆さんも、役場におれば倒産することはない、こうたかをくって一生公務員でおれる、こういうような気持ちではなくて、明日は我が身で、耐えて苦しんで知恵を出していただく、こういう姿勢が大事ではないかと思います。

この2点について、ご答弁をお願いします。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

まず、オレンジバスでございますけど、今、あくまでも5年間の実証運行の中ということのひとつご理解をいただきたい。

それから、東員町が今現在走らせておるバスは、公共交通という位置づけでございます。国の国交省の運輸局の管轄の中で走らせていただいておりますということでございますので、以前、社会福祉協議会が送り迎えをしておるバス、そういうものではないということ、ひとつご理解をいただきたいと思います。

それから、2点目のガラス温室の関係でございますけど、あくまで、あの施設は国の補助金をいただいてつくった施設である。そして、平成19年までは適化法というんですか、町がつくった経緯等をきちっとしないと、補助金返還とか、いろいろなことが絡んでくる。平成19年までは今のままの状態ということで、なかなかいろえなかった。

平成19年以降は、極端なことを言うと、補助金の返還とか、そういうものは少し楽になるというんですか、そんな中で、ずっとなかなか難しい施設できたんですけど、何とかもう一度蘇らそうということで、町民の皆さんに立ち上がっていただいた、町民協働活動委員会にご協議をいただいた、そして提言をいただいたんです。まだ、提言をいただいて1年たつところなんです。

だから、その中でいろいろもがいておるといいますか、何ができるか、いろいろのことを今一生懸命させていただいておる時なんです。急に何かあの施設が、ここ1年ぐらいで非常に皆さんにご議論をいただいておりますけど、それまでは何もなかったんですね。だから、町民の皆さんが動こうとしてみえるんですので、いましばらく時間をいただきたい。その結果を見て、到底これは難しいということになれば、それはもう廃止なりをする時期は来ようかと思っておりますので、しばらく時間をいただきたい。

直売所もやろうとって動き出したところでございますので、その辺はどうぞご理解をいただきたいと思っております。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) オレンジバスにつきましては、道路交通法やいろんなことで、公共交通機関ということを言われましたが、私が学生時代を過ごしました千葉県の柏の向こうに我孫子というところがありますが、この我孫子では病院の送迎バス、福祉施設のバス、そして自動車学校のバスが送迎バスのネットワークを組みまして、オレンジバスの力を発揮している、こういうことをお伺いしております。これも研究させていただきました。

もう少し行政側として、いろんなネットワークで住民のサービスができるはずでございますので、ご努力をいただきたい、かように思います。

そしてガラスハウスにつきましては、検討する検討するというけども、ちょっとそれは見当違いではないか。検討すると口ばかり言っていて、それで野菜や花は育ちません。昔はタイムイズマネー、こう言いましたけど、今はタイミングイズマネーでございます。タイミングを外しますと、もうお金にならない。こういうことも町長のおなかの中に入れていただきまして、ひとつ今まで言わなかったのに何で急に。私、1年前から言っているんです。議員に当選させていただいて、私は北勢線とそれにまつわるオレンジバス、そしてガラスハウスとごみ問題、これ解決なくして東員町の発展はあり得ない、こういうことで東奔西走して、いろいろな資料を集めて、ご提言を申し上げておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

前に三宅議員から、町長は行政マンなのか政治家なのかという、私、そんなきつい質問はようしません。しませんけれども、大台町の町長で、昔は宮川村の村長をやってみえた方、この間も4～5日前に会わせていただきました。

何かいいアイデアがないか。僕はある人を紹介させていただきまして、一山やったら、彼はこういうふうにするという話をさせていただいております。大台町の方からは、中村充男のアイデアをくれと、こういうふうに言われているのに、ここの東員町で議員をさせていただいて、こうしたらどうか、ああしたらどうか、一蹴されてしまって、「充男君、それは難しい」、職員の方がこう言われる。

私、この町内でお住まいをさせていただいておりますので、ここの町のことを一生懸命考えておりますが、大台町の方から私に知恵をかしてくれと。私は中村文昭さんという方を紹介させていただいて、彼は全国で活躍している方、宮川村出身でございます。また、宮川村出身の町長が大台町と合併して、人数の多い大台町の町長に勝って、今現在、新大台町の町長をなさってられる。これは東員町とも姉妹都市提携を結んでおりますので、よくご存じと思いますが、災害のときに、町長どこへ行った、どこかへ隠れたと思っていた



ら、東京へ行って、20億円もの金を引き出してきた。そしてすぐに復旧に当たられた。庁舎の中で対策をしているのは副町長に任せて、町長のその手腕で、あちこち走っていただいて、この東員町のためにご尽力をいただきたい、かように思わせていただくわけでございます。

ガラスハウスも、いよいよこれは「たて社会」では考えられないことございまして、まだつづすにはもったいない。どうか、何とか、いいふうに活用していただきますようお願いいたします。

もう少し質問したいわけでございますが、もう時間が30分を切ってしまいました。あと2つ、質問がありますので、次にいきます。

2番目は、シルバー人材センターの事務所でございまして、私、議会に送っていただいて、先日初めてシルバーの事務所なところへ行ってきました。尋ね尋ねて1回目、途中で戻りました。これ以上、員弁川を上っていったところにあるよと言われて、ずっと行きましたが、これ、員弁町か大安町にならないのかなというところに、何か、かまぼこの屋根のようなものが見えてきて、あっ、これかなということで行きましたが、あそこの場所で、東員町のシルバー人材が光っているということを内外にアピールできるかどうか。そして、シルバーに登録したいいろんな方が、ちょっと寄っていかうかというには、あそこまで自転車をこいで、おば車で押していくようなシルバーの方は行けるところではありませんね。もっと事務所だけでも便利なところ、人目につくところへ。あれではまるで榎山節考のおば捨山かおじ捨て山みたいなものでございまして、お年寄りを大切に作るパワーをかりるというには、ちょっとほど遠い位置ではないか。

立地はリッチにつながると、こう言います。あそこで作業されるのならいいのですが、あそこで事務とか、そういうものをやるには、ちょっとお年寄りが気軽に立ち寄れる場所ではない。ですから、先ほどのガラスハウスと絡み合わせまして、あそこへ持ってきて、いろんなものをやる。

そして、先ほど言いました早島町でございますが、世のならいでございまして、繊維関係がだめになってきた。大きな倉庫があちこちに空っぽである。早島町は、大きな倉庫を1つかりまして、年間180万円の家賃を出しておられます。そして、そこへシルバーの方々が集めてきた粗大ごみを、シルバーの方々、2人分と計上しまして、もっと何人かでやっているんですが、260万円の人件費、そしてちょうつがいやら、ラッカーやら、ペンキやら、はけやらと、こういうものを買うのが150万円、そして、リサイクルセンターのようなものを買ってみえまして、若い人たちもたくさん、その展示棟に買いにきて、年間800万円以上

の売上げをして、それらの経費を引いても、町に雑収入として170～180万円入れてもらってます、こういう町からのご報告でございました。

今、ガラスハウスは60万3,000円の地代、そして運営費、いろんなものをこっちが出すから来いと。それなら県営住宅、町営住宅の壊れかかったところに例えば入っている人が、一軒家が空いたから、家賃も要らん、電気代も水道代も要らんで来いと言われれば、それは皆さん、ありがたく思っていらっしゃると思います。しかし、そこで少しでも町のためになる、町の負担にならないような運営が、そんな早島町でやっておられるのに、東員町ではちょっと脇が甘いのではないか。もう少しこれについても考えていただきたいと思います。

ですから、シルバー人材の方々がふっと立ち寄っていただける、そして、あそこでそういうことをやっている、うちの白菜を売りたい、大根を売りたい、人が集まってくるところで、皆さん、何か売りたい。自然発生の楽市楽座のような、そういう市ができてくるのではないか。役場が考えて、一遍こうしたらどうかというよりも、町民の皆さんの力を、町民が立ち上がる、こういうことを言われるのなら、自然発生の楽市楽座を、あの辺にできることを私は願っておりますが、町長のご答弁、お願いします。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) シルバー人材センターの事務所についてのご質問にお答えをさせていただきます。

現在、シルバー人材センターは、平成18年に竣工をいたしました東員町資源ごみストックヤード内に事務所を置き、活動をいただいております。

当センターは、県内の町の中でいち早く財団法人格を取得され、長年培ってこられた知識や経験を生かし、働くことを通して社会参加をいただき、地域社会への貢献など、素晴らしいセンター運営をいただいております。

町といたしましては、今後、少子高齢化が加速する中で、当センターの活動は、高齢者福祉を展開していく上で必要不可欠であると考えております。

これからも今の事務所をご利用いただきながら、ほかにご利用可能な事務所がございましたら検討をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君)      ありがとうございます。

プラムチャンネルがもう終わるということで、あそこの建物を役場の何課で使うかというようなことを話し合っている課があると、こういうことを聞きましたが、これ以上、教育委員会が向こう、何課があそこと分散してしまいますと、大変なことになるということで、私はあそこは頼まれたわけでも、しゃべったわけでもありませんが、朗読「ひばりの会」とか、フォトクラブとか、もっとそういった拠点が欲しい。20年間、非常に活動されている方々に、キーステーションとしてお使いいただくのなら、私も大賛成でございますが、役場の何課をあそこに持っていく、そういうことだけはやめていただきたい、こういうふうに思わせていただきますので、シルバーの事務所も、どうかひとつ足のない乗り物の乗れない方、自転車、おば車の方でも自由に出入りができる、そういったところをお考えいただきたいと、かように思わせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは残り約20分でございますので、新年度予算について、お伺いをいたしたいと思えます。

この平成21年、新年度の予算編成に当たりまして、昨年度とどこがどう違うのか、もうやめたらどうかと言われておりましたフェスティバルも入っております。ほとんど変わりばえがしないように私はお見受けをしておるわけでございますが、目玉の事業なり、特色がございましたら、端的に、何に重点を置いて、こういうふうな新年度予算をつくられたかということを、町長、副町長、どちらでも結構でございます。ご答弁願います。

議長(山口 一成君)      佐藤均町長。

町長(佐藤 均君)      中村議員の、新年度予算内容についてのご質問にお答えをいたします。

平成21年度の予算につきましては、昨年度とどのような点が違うのかのご質問でございますが、平成21年度予算を平成20年度当初予算と比較し、特徴といたしましては、投資的経費は、前年比9,000万円、13.6%減で5億7,300万円に、扶助費は、前年比9,900万円、14.9%増で7億6,900万円となっており、投資的経費の減額は、大規模な学校施設整備がおおむね完了したことによるものであり、また、扶助費の伸びは、主に障害者自立支援事業費の増加と、乳幼児・児童生徒医療助成費の拡大によるものと考えております。

また、目玉事業、特色につきましては、「安全安心のまちづくり」のうち、少子化対策の一環といたしまして、乳幼児・児童生徒の医療費無料化の15歳までの拡大、乳幼児インフルエンザの予防接種の助成事業、虫歯予防のためのフッ素塗布健診の新設、妊婦健

康診査受診回数の拡充などを、さらに高齢化時代に備え、「認知症対策連携強化事業」を、障害福祉事業では、障がい児の発達支援のため相談業務を新設いたしております。

また、「教育振興のまちづくり」では、学校施設のバリアフリー化や中学校コンピュータ教室の機器更新、「信頼されるまちづくり」では、平成23年度から向こう10年間の町政の運営方針を定める総合計画の策定に向けての取り組みを、「元気なまちづくり」では、中部公園の施設整備、また中小企業支援対策といたしまして、緊急保証制度の保証料助成などを新年度予算に盛り込んでおり、福祉・教育の充実と、現在の社会経済の悪化に対する施策に重点を置いておる点と、平成20年度3月補正予算と一体的な予算編成といたしております。

フェスティバルの件も出されました。フェスティバルは、私もあと2年でございますけど、私の任期の間は「元気なまちづくり」ということで、継続してさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) ありがとうございます。

今朝も、早朝から駐車場に結構車がとまっております、何かあるのかなと思いましたが、税金の確定申告にお越しになっている方が、早朝、寒い中、来ていただいているのです。その時に私、胸が痛くなりまして、こういう方々の血税を1円たりともむだにしてはならんと。

平成21年度の予算も、今、町長のこだわりもお聞きしましたがけれども、学校のバリアフリー化とか、一口にバリアフリーと言っておりますけども、身体障がい者と健常者の違いはどこにあるか。目線が違う。いろんなことがあるんです。

先般、文化会館のトイレが何か月もかかってバリアフリー化、1,000万円以上の予算がかかりましたね。トイレの手配もおくれまして、それまた余分にかかっていった。

この中で、やはりこれから何かされる、何かを建てられるときには、身体障がい者の方を設計の段階から入れて、その人たちの意見も取り入れて、ユニバーサルデザインをやらないと、設計士のマスターベーションと行政側のちょっとしたアイデアでやっている、目線の違い、足の悪い方は自分の足元を見て、足の運びで行かれる。健常者はよそを見ながら歩いている。ぶつかる。こういうことが、やっぱり身体障がい者の方と健常者の違いをよく認識をして、そういうところに最初から取り入れる覚悟でいかないと、いつもかも後手後手でバリアフリー、そういうバリアを行政側が張っている。ですから、どうかこれからは、

何をなすにも身体障がい者の方のためにやるなら、その方に設計の段階、改造される段階で意見を十二分に聞いていただきたい、このようにお願いをする次第でございます。

そして、今のフェスティバルの件でございますけれども、あれだけのお金がどこに消えていくかという、テント代とか設営にかかっている。このお金を各自治会で割り振りまして、それは人数割にするか、家割にするか、どういうふうにするか、これから検討の余地はありますけれども、各自治会で元気な町をつかってほしいということで、お金をその分に割り当てた方が、もっと各自治会は活発に、すばらしい、1プラス1が3になってくるようなまちづくりにつながってくるのではないかと、このように思わせていただきますが、いかがでしょうか。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

人と人との交流が現在の社会、大きな災害とか、いろいろな段階でお隣同士の交流とか、いろいろの交流の仕方はあるかと思えます。自治会の中での交流、お隣が昔のような交流ができておりません。だんだんと疎遠になっていって、このような社会でございますので、自治会は自治会として、当然いろいろの場面で交流を図っていただく。町は町として、町内の町民の方、いろいろな場面で交流を図っていただく。これはスポーツも文化も、みんな同じだと思います。もっともっと交流の場をふやすべきだと私は思っておりますので、どうぞご理解をいただきたいと思えます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 議長席から国語の大家がこちらを見てみえますので、大きなことは言えませんが、町長、今年迎えられまして、新年明けましておめでとうございますと、成人式の日もステージの上で新成人おめでとうと、こういうことを言われました。

今度、新年度予算、「新」という言葉を今年1月から何回使われたでしょうか。相当、使われたと思えます。そんなこと、おまえに言われなくてもわかっておるとおっしゃるかも知れませんが、親という字を手のひらに書いていただきますと、立ち木を見ると書くわけでございます。立ち木という「木」は子どもでございます。子どもがすくすくと育って立ち木になっていく。その姿を横でじっと見てるのが「親」、こういう漢字でございます。立ち木の下の木は子どもでございます。その木を、こうしたらあかん、ああしたらあかん、ああせいこうせ

いと木を囲んでしまうと、たちまち「困」という字になるんです。子どもを困らせて教育は説けない。

私はきょう、教育論を申し上げるわけございませんので、それはちょっと横へ置いておきますが、新年度の新も親によく似ておりまして、立ち木の横に「斤(おの)」という字を書くのです。そうすると新しいという字になるのです。見るを斤に変えるだけ。小さな木がずっと成木に達して立ち木になった。それをぱっさりと斤で切って、平成20年度の予算は全部ぱっさり切って、そこから出てくるのが新芽と言われるわけです。新しいという字はそこから来てるわけです。

昨年20年度と今年も、まあまあへいごうしてと、こういうお言葉でございますけれども、そうすると既得権者が発生したり、わしらはこういうものをもうとったやないかと。全国見ましても、民生費、そういうものがふえております。ですけど、それは聞こえがいいけれども、今のこのご時世にそうしたばらまき体制がいいかどうか、これもご検討をいただきたいと思えます。

新しいという字は新年度の予算ですから、一たん去年の予算書をぱっさり切って、新しい気持ちで、それがまたフェスティバルにつながるのならそれもよし。しかし、去年度と比べながら書いていくだけの予算書では、これは予算を検討する値もない。

漢字、英語、みんな意味がありますので、単純に新年おめでとう、新成人おめでとうじゃないんですね。新しいという意味はどういうところから来ているか。英語のニュースはどういうところから来ているか。東西南北のNEWSを東西南北から集まってくるのがニュースなんだ。わかったかと言われてわかりました、「I understand」は、あなたより下に立つ「under」、あなたの言うことわかりました。みんな意味があって、こういう言葉があるんです。

この予算の編成に当たりまして、新しい気持ち、どこか出てるところがあるかということころを、私、見させていただきましたけれども、何と申しますか、前のプラムチャンネルがなくなると、その人たちの人件費が総務にいて、総務がこれだけふえてと、そういう数字のやりとりはそれで結構でございますが、今年はこのことに力を入れる、今年はこのやるといふ、目新しい事業を確実にこの予算で裏づけていかないと、新しいまちづくり、みんなの喜ぶ、満足度が100パーセントになるまちづくりができにくい、こういうふうには私は思わせていただくわけでございます。

その点の町長のこれからの今年1年、新しく迎えるわけでございますので、これだけは必ずやるぞという決意を一言お伺いしたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

今年、平成21年度、町長として新しいことをやるぞということを言えということなんですけど、町民の皆さんの、東員町に住んでよかったなというまちづくりを一生懸命させてもらう。そんなに今年平成21年度だけ違った方向でと、今急に言われても、なかなかご答弁できないわけでございますので、よそにない、東員町らしいまちづくりを目指すには何をしたらいいか、一生懸命考えさせていただきますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 最後に、町長も大変ご努力をいただいておりますことは百も承知をいたしておりますが、気配り、目配りばかり。気配り、目配りは結構でございますので、これからは町民のための心配りの行政をしていただきたい。そうすると、おのずと回答が出てくるんじゃないか。合併しなかったころ、東員町も私どもと一緒にございまして、苦しいながらも楽しい我が家、こういう言葉がございますけど、苦しいながらも町民の皆さんにご理解いただくことはいただき、行政も鬼になるところは鬼になって、願いをする。そして理解し合って、笑顔のあるまちづくりにご尽力を賜りますようお願いをいたしまして、私の質問とさせていただきます。

ありがとうございました。